

苗場山～小松原湿原山行報告

【山行日】2016年6月18日（土）～19日（日）

【山域】谷川連峰

【ルート】苗場山～小松原湿原

【登山方法】小屋泊まり縦走

【参加者】CL 齋藤、SL 菊池、加藤、菅井、室、杉山、寺崎（報告19日）、清野（報告18日）

【内容】

6月18日（土） 苗場山 天候：晴れ

《コースタイム》

5時千葉出発→小赤沢林道駐車場（3合目）到着10：35→出発11：45→4合目12：25
→5合目13：00

→6合目13：45→8合目14：30→坪場14：40→9合目15：05→苗場山自然体験交流センター15：50

2台の車に分乗し、各車5時に千葉を出発した。5時間半かかって長野県の秋山郷にある小赤沢林道駐車場についた。ここは苗場山3合目に位置する。着いてすぐに2台の車は私たちメンバー6人を降ろし、明日予定の小松原湿原下山口の風穴に向かった。1台を風穴駐車場に留めておくためだ。各自食べたり、おしゃべりしたり、準備運動をしたりしてのんびり待っていると、1時間程して車が戻ってきた。運転者は休む間もなく登山準備し、全員で出発した。



1. のんびりと運転者2人を待っていると



2. さあ、登山開

登山口からすぐに樹林の中を歩き始めた。はじめは緩やかだったが、すぐに折り返しの急登となった。ショウキランが1か所だけ咲いていた。10分ほどで尾根に上がり稜線沿いの登山道を進んでいった。

4合目のところに、水場があった。沢水のもようであった。ここを過ぎると、水捌けの悪い場所に丸太の輪切りが敷かれていた。ゴゼンタチバナ、イワカガミの花々が続いていた。さ

らに見通しのない樹林帯の中の泥濘と岩ゴロの混じった登山道を進んで、少しずつ高度を稼いでいった。

5合目から20分ほど進むとこれから向かう稜線が見えてきた。

6合目を過ぎるとクサリやロープの付いた急登箇所が混じってきた。ショウジョウバカマ、エンレイソウ、ツマトリソウ、ナエバスマシ、ミツバオウレン、ベニサラサドウダン、ウラジロヨウラクが今まで出てきた花々と共に、目を楽しませてくれた。

さらにガレた急登を進み、8合目を過ぎると、前方に坪場の稜線が見えてきた。少し進んで稜線に上がると山並みの展望が広がり、道は緩やかになった。

10分程で、突然視界が変わった。広い台地の山頂湿原地帯である坪場に出たのだ。青い空の下、広大な湿原の中に続く木道を進んでいった。美しい池塘に見とれながら歩いていると、気持ち良い風が汗に濡れた私たちの身体を乾かしてくれた。ワタスゲ、タテヤマリンドウ、ヒメシャクナゲ、チングルマ、イワイチョウなどの花々が足元にひっそりと顔をのぞかせていた。



3. 突然視界が開けた。坪庭



4. 広大な湿原で休憩

25分ほどすると、9合目の標識があらわれ、再び樹林帯の中にはいった。イワナシ、ウスバスマシ、コヨウラクツツジなどが咲いていた。

15分程で樹林帯を抜けると、再びさらに広大な湿原にでた。どこまでも広がる、池塘を含んだ湿原は圧巻であった。遠くの山並みに、鳥甲山、岩菅山、佐武流山、仙ノ倉山を望むことができた。近くに見える、山頂に白い建物が建っている山が筍山で、苗場山スキー場があるところだそう。雄大な景色を眺めながら、爽快な気分で進んでいくと、途中1か所だけ雪渓があった。Kさんの提案で酒類を冷やすため、ポリ袋に雪を詰めた。



5. 山頂湿原と佐武流山



6. 雪渓で雪を集めているところ

登りはじめてから4時間5分で、今夜の宿泊地、山頂にある苗場山自然体験交流センターに着いた。着くとすぐに屋内には入らず、外のテーブルで、雪で冷やしたビールや飲み物で乾杯した。ゆっくりと、楽しいおしゃべりの時は続いた。夕飯はカレーとポテトサラダと薬味で、おかわり自由だった



7. 苗場山自然体験交流センター前のテーブルを囲んで



8. 登山道に咲いていたナエバクスマリ



9. カレーとポテトサラダと